

種名	ワシカモメ Larus glaucescens 												
	分類	チドリ目カモメ科											
特徴	背中と翼の上面が先端まで一様に淡い青灰色の大形カモメ類。シベリア東部からアラスカ西部にかけて繁殖地をもち、日本には冬鳥として渡来する。個体数は少なく、北海道以外では稀である。												
生活	越冬期には、他の大形カモメ類の混群中に1～数羽が混ざっていることが多い。海岸、港、河口などで見られ、魚のアラや弱って水面に浮いてきた魚などを主に食べる。繁殖期には海岸の断崖や島の草原などにコロニーを作って繁殖する。地面の凹みに枯れ草や海藻を敷いて巣を作り、巣の周りの狭い範囲を防衛する。卵数は2～3個、オス、メスで26日位抱卵する。繁殖期には魚とその死体、鳥の雛、カニ、ヒトデ、貝、海獣の死体などいろいろな餌を食べる。繁殖期にも残飯に頼って、生活することもあり、標識をつけられたある個体が毎日巣から60キロ離れたゴミ捨て場へ通っていた例がある。												
声	ワシカモメもオオセグロカモメによく似た声で鳴くが、オオセグロカモメより少し声が高いようで、シロカモメにより似た声のように思う。												
見分け方	成長のくちばしは黄色で、下くちばしに赤い斑点があり、脚がピンク色であることは他の大形のカモメ類と同じである。背中から翼の上面は一様に淡い青灰色で、初列風切も同色である。												
時期	時期	1	2	3	4	.	.	.	.	.	10	11	12
その他	全長(L)65cm 翼開長(W)134cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥													